

## スズメウリは擬似多年草である

菊田 穂

### はじめに

スズメウリ *Melothria japonica* Maxim. は、『牧野・新日本植物図鑑』では「本州、四国、九州および濟州島の原野や水辺などに生える一年草」となっており、『検索入門・野草図鑑』では「水辺を好んで生える一年生のつる草」となっている。『フィールド版・日本の野生植物』では一年草・多年草の説明はない。

20年前にスズメウリを鉢作りで育てたことがある。秋になり実が白くなつたので、置き場所を変えるために植木鉢を動かしたところ、植木鉢の下に白い地下茎のようなものを見ついた。よく観察すると一本の蔓が鉢の底に潜り込み、その蔓の先端が肥大してまるで地下茎（以後、珠芽と呼ぶ）のようになつているものだつた。

その肥大した蔓をそのまま植木鉢で伏せておいた。翌春に見ると、その肥大した蔓から新しい芽が伸び出していた。それを畑の隅に植えて様子を見ていると、新しい芽はどんどん茂り、秋には実をたくさんつけた。それ以来、私は「スズメウリは多年草だ」と思つてゐる。

珠芽形成を確認するために鉢栽培を試みた。また、野外での状況を観察し、スズメウリは多年草であると確認した。

### 方 法

2012年3月にスズメウリの種子を播種し、発芽した苗を4号の底面灌水鉢に植え、生育を見守つた。観賞を目的としないので蔓が自然に伸び広がるに任せ、土中に珠芽が形成されるのを観察した。また、スズメウリ自生地で珠芽形成を確認するために冬に土中の珠芽を掘り起こし測定した。

### 結 果

2012年3月に播種した後、発芽苗を4号の底面灌水鉢に植えた。秋になって蔓は2m以上に伸び八方に広がつた。11月になり株の根元を引き抜き、蔓を手縛ると多

〒669-1533 兵庫県三田市三田町10-18

2015年3月30日受理

くの蔓の先端が、石の下あるいは腐植の積もつた軽い土の下に潜りこんでいた。それを掘り起こすと先端は肥大し白い珠芽（写真1）になつていた。元の親株は肥大しておらず、単なる根であつた。越冬する状態ではなく枯れてしまうようだつた。

蔓と珠芽の一部は標本として兵庫県立人と自然の博物館に持参した。

2013年3月になり周辺を改めて確認すると軽い土の下などに多くの珠芽が出てきた。曲がっているのをたどつて長さを測ると、長いものは16cmあり、重さは6gあつた。その他長さ4~12cm重さ4~5gのものが何本もあり短いものを入れれば20本は出てきた（写真2）。

スズメウリは葉が互生する。珠芽に繋がる蔓には葉が互生している（写真1）だけでなく、珠芽にも互い違いに節があり、そこから新しい芽と根が出ていた。

次に、自然界での状況を三田市下深田地区の自生地で確認した。そこは、数本のカイズカイブキが植えられた草地で、根際には粋殻が捨ててあり、発酵して軽い腐葉土の状態になつていて、そこに多くの蔓が下りていた。それを掘るとやはり珠芽がでてきた（写真3）。

### 考 察

鉢植えでの実験でスズメウリは珠芽でも繁殖できることが分かつた。また、自然界では珠芽によつても繁殖していることが明らかになつた。

このことを人博の藤井敏夫先生に話すと、「擬似多年草と言える」と教えてもらった。擬似多年草とは、ヤマノイモのようにその年に植えた親芋が萎びてしまい、横に新しく若い芋が育つような植物のことである。

考えてみると、ジャガイモやヤマノイモ・トリカブト・チゴユリその他、たくさんの多年草が擬似多年草にあつた。ウリ科のキカラスウリは塊根が毎年太り大きくなるので、こういうのが本当の多年草だ。

### まとめ

スズメウリは、ジャガイモやトリカブトのように地中で横に新しい芋や地下茎が出来るわけではないが、植物の一部が地中で肥大し栄養生殖もするのだから



写真1 白い珠芽と緑の蔓。珠芽にも蔓にも節がある。節は交互に出ている。2012年11月4日撮影。



写真2 蔓は枯れて珠芽のみになっている。くねっている右上の珠芽は長さ16cm、重さ6gであった。  
2013年3月18日撮影。



写真3 三田市下深田地区の自生地の3本の珠芽。白い珠芽に緑色の蔓が伸びている。2013年12月25日撮影。

「一年草」とするよりは、「擬似多年草」が適切であると考える。

## 謝 辞

兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武先生と藤井敏夫先生には、ご指導をいただいた。お礼を申し上げる。

## 引用文献

- 牧野富太郎. 1961. 牧野・新日本植物図鑑. 北隆館.  
長田 武正. 1984. 検索入門・野草図鑑・つる植物の  
卷. 保育社.  
佐竹義輔・大井次三郎・北村四朗・亘理俊次・富成  
忠夫. 1985. フィールド版 日本の野生植物 草本.  
平凡社.